

令和2年度 幼保小連携推進事業 実践報告

令和3年3月



鳥取市立面影小学校

鳥取市立白ゆり保育園

認定こども園さくら幼稚園・さくら保育園

本日の報告内容

- 1 はじめに
- 2 今年度の取組
- 3 成果と課題
- 4 今後の連携

Ⅰ はじめに （面影小学校の実態）

- ・児童数 412名

- ・地域の実態

市街地に位置し、古くからの住まいの中に新しく住宅地が増えてきている。

自然、史跡が多く、地域の組織が教育活動に協力的である。

- ・児童の実態

素直で明るい。友だちと関わり合いながら元気に遊ぶ。

話を最後までじっくり聞くことや自分のすべきことを考えて行動することが苦手な傾向が見られる。

- ・幼保小の接続についての現状

- ・毎年30近くの園から入学

- ・昨年度から、5年生が総合的な学習の時間で白ゆり保育園年長児との交流が始まった。

- ・1年生が体験入学で交流してきた。

- ・「スタートカリキュラム」はあったが、1年生がスムーズに小学校生活に慣れるためのスケジュール的なものだった。また、園の先生方と共有した接続カリキュラムではなかった。さらに、1年担任など関わりのある職員しか使っていなかった。

- ・学校として幼保小連携の体制づくりが行われていなかった。

- ・園児と児童、職員同士が交流する機会が少なかった。

2 今年度の取組

①アンケートの実施

②接続カリキュラム・スタートカリキュラム

幼保小連携年間計画の作成

③年長児と5年生・1年生との交流

④保育参観（特別支援教育主任・若手教諭）

①アンケートの実施について

○目的

- ・子どもの教育に関わる者全てが地域の子どものよいところや課題を知り、子どもの育ちを共通認識する必要性があるのではないか。
- ・園と小学校での子どもの捉えの違いや認識の差が明らかになり、園から小学校への段差の解消になる手立てを講じて、その手立てを接続カリキュラムに活かしていきたい。

<これまでの課題>

- ・幼保小連携推進事業について、小学校1年担任以外の園との接続に関わらない職員は、スタートカリキュラム等の存在、内容把握、連携事業の実施について認識があまりない。

①アンケートの実施について

○方法・・・職員全員を対象にアンケートを実施

(64名が回答)

(さくら幼稚園・さくら保育園、白ゆり保育園、面影小学校)

<アンケートの内容>

- ・全員「面影校区の子どものよいところ」
「面影校区の子どもの課題・よくしていきたいところ」
- ・園 「就学後、小学校で活かしてほしいこと」
- ・小学校「就学までにできるようになってほしいこと」

①アンケートの実施について（結果）

集計するにあたって、小学校教員には園の「5領域」になじみがないため、小学校の校訓「かしこく」「うつくしく」「たくましく」の3つの視点で回答を分類した。

しかし、校訓での分類は、園との整合性を検討することができないというアドバイスをいただき、接続カリキュラムに反映させる際には、最終的に、育てたい3つの資質・能力「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」で表すこととした。

地域の子どもの教育・保育に携わる者の総意としての傾向や幼保と小学校との認識の違いが見えてきた。

幼保小接続カリキュラム整備にあたってのアンケート集計（面影、白ゆり、さくら）

令和2年8月4日

面影小学校 子どもの育ちをつなぐプロジェクト

・本校の校訓「かしこく」「うつくしく」「たくましく」の視点で分類

	面影校区の子どもの良いところ	面影校区の子どもの課題、良くしていきたい点
「かしこく」	絵本に関心が高い いろいろなことに興味関心をもって意欲的に遊んだり生活したりする1 自分のやりたいことに向けて意欲的に取り組む3 自分なりに考え工夫する4 想像力を膨らませ工作等を楽しむ	語彙の少なさ4 自分で課題解決する力、流されやすい3・1 読書量1 人の話を聞く力1 人の話をじっくりきくこと7 自分で工夫する、試行錯誤、物事を深く考える3 集中力が持続しない 自分の意見をもち
「うつくしく」	困っている友だちを助けようとする1・8 友だちへの理解がある1 人懐っこい9・4・2 明るく朗らか7・2・3 素直5・7 かわいい2 子どもらしい1・2 人の話（助言）を素直に聞くことができる しんどい、難しいことにも取り組める 楽しい、面白いことに積極的に取り組む 無邪気、純真 誰とも関わろうとする 個性豊か 誰にでも構ってもらいたがる 話好き 意欲的に当番活動に取り組む 楽しさをもっていろいろな人に積極的に関われる7 自分の思いや考えを伝えるために様々な方法で表現する4 年下の友だちに優しく接する2 元気、活発6 友だちを大切にできる 周囲の人とかかわりを楽しむ あいさつ、返事ができる5 自然への興味関心が高い 友だちと仲が良い	言葉づかい10・1 あいさつ・返事9・5・1 ルールやマナーを守る意識、規範意識5・1 我慢が足りない3・1 明るく元気に人と関わる姿2 折り合い2・1 態度、受け答え2 相手への思いやり1 特定の仲間とつながり、広がらない1 すぐに手が出る1 自分の気持ちや考えを押し通そうとする、自己中心1・1 自分に自信をもつ1・1 けじめがつかない1 指示待ち1・1 その場に応じた声の大きさの調整1 自分の思いを伝えることが苦手。特に、聞き返されたり注目されたりすると思いを出しにくい、伝え方、問題解決能力に課題4 最後まで話を聞けない、相手の話の途中でも自分の言いたいことを言おうとする 相手のことを受け入れる 積極的にチャレンジしにくい 相手の思いに気づきにくい 内弁慶、慣れないところでは自分を出しにくい 自分で考えたり判断したりする2 うまくいかない時に気持ちの調整ができない2 その場の状況を見て考える1
「たくましく」		

		相手を大切にできる気持ち 規律の定着2 自分の思いが通らないときに人にあきらめたりきついたりしてききたたりする、人の気持ちを考えた言動2 おもいで行動2 友だちの意見や気持ちに耳を傾け、受け入れる気持ち 自分の思いや考えが強く、周りの思いに気づきにくい 地域を愛し、ごみを捨てないきついにする2 自分の思いは生かせるが相手の思いを聞いたり受け入れたりする2 好きなことに挑戦しようとする気持ち 周りに目を向け、自ら試行して行動する 友だちと一緒に物事を進める その場に応じた声の大きさの調整1
「たくましく」	元気がよい11・2 外遊び、体を動かして遊ぶ子どもが多い10・3 時間を考えて行動する1 一生懸命頑張れる1・1 なんでも意欲的に挑戦しようとする 一緒に遊ぶことを喜んで気持ちにかけたりする しっかり遊び、よく食べる	早起早起き、生活リズム3・2・1 ゲーム、メディア2・2 姿勢1・3 筆の持ち方1 歯の健康1 交際マナー 体力がない、体づくり3 物を大切に 家庭での生活習慣2 自分のことを自分でしようとする 家庭での関わりが深まり 粘り強く取り組む 自分からさまざまなことに挑戦しようとする気持ち 起床時間が遅い

	小の先生「就学までにできるようになってほしいこと」、幼保の先生「就学後、小で活かしてほしいこと」
健康に関すること	進んで運動しようとする心2・4 衣服の着脱、片付け6・1 手洗い、うがい、汗をふく、拭きなど自分の体を清潔に保つことが自分でできる4 タオル、ハンカチをもつ1 早寝早起きなど、年齢に合った生活リズムを身に付ける6・3 靴を履く、脱ぐ、揃える1 歩道、横断歩道でのきまりの把握1 排泄の自立3 身の回りの整理2・2・2 食事の量、マナー2・1 和式での排便、排便への時間リズム2 自分で起床1 生活リズム1・1

アンケート結果から見えてきたこと

面影校区アンケートの分析(Ⅰ)「今ある良さや課題」

【園と小学校で共通していること】

(良さ)

- ・人懐こい
- ・素直
- ・明るく、元気
- ・一生懸命頑張れる



たくましく、生きる力が
備わっている。

(課題)

- ・挨拶、返事
- ・人の話を聞く力
- ・伝える力
- ・問題解決する力
- ・流されやすい
- ・指示待ち
- ・自信のなさ
- ・早寝早起き、生活リズム



子ども自身の力では
どうにもならない
こともある。家庭の
力が大きく連携が
必要。



【園と小学校で捉え方の違いを感じたところ】

- ・園では、絵本に関心が高く、話し好きと捉えているが、小学校では、語彙が少なく、身近な人（家族）の言葉かけ、読書量に課題があると捉えている。
- ・園では、友だちが好きで関心があり、困っている友だちや年下の子どもに優しくできると捉えているが、小学校では相手への思いやりや人との関わり方に課題があると捉えている。
- ・小学校では、規範意識や我慢強さ、折り合いをつける力などに課題を感じているが、園では課題として取り上げられていない。



園での育ちや学びを小学校につなぐポイントとなる

アンケート結果から見えてきたこと

幼保小連携・接続の取組に期待していることは？

小学校

- ・入学後の生活や学習に、子どもたちが落ち着いて取り組みめるよう、幼児期に育んでほしいことを伝えたい。

園

- ・幼児期の子ども様子を小学校に伝え、学童期の育ちにつなぎたい。

②接続カリキュラム・スタートカリキュラム・幼保小連携年間計画の作成

<単元配列表>

梅田市立宮野小学校 第1学年 スタートカリキュラム(単元配列表)

学期	4月第2週(入学式の週)	4月第3週	4月第4週	4月第5週	5月第1～3週
特別活動	学校行事 ・入学式 ・学区別児童会 ・陸上測定・のりこ跳び ・付添い下校	・ホビー紙組成立 ・たのしい きゅうしゅう	・歯科検診 ・参観日	・参観日	・家庭訪問 ・なかよし遠足
学活1	はじめまして よろしくね ・あかるいあいさつをやってみよう ・きゅうしゅうのじゅんぴをやってみよう ・けいこうのときにだいいじなことはなかな	たのしい きゅうしゅう ・おいしくきゅうしゅうをたべよう ・きゅうしゅうのじゅんぴはどんなふうにきくかな	・学年発表をひらこう ・1年生のほかのクラスの友だちや先生ともあいさつをしてみよう		・1年生になって(パスポート) ・学期のめあても考えよう ・なかよしをせめよう
学活2	・1年生のてあらいばやトイレをたんけんしよう ・あそびのじゅんぴをやってみよう	・くつがそろそろと靴もろがほしいね	・図書館へ行こう	・先生や友達となかよくなろう	
生活科	がっこうの せいかつ ・学校での1日のくらし ・じゅんぴのことはなしてみよう	・がっこうの だいいき ・ともだちのことをきいてみよう ・学校探検をしよう	・がっこうの だいいき ・空制をきいて方だちとくわんしよう ・他の学校のくらしをなかなろう		きれいに さいてね
国語	いい てんき ・教科書をひらこう	おはななし たのしいな えんぴつとなかよし ・空制をていびいにかいてみよう	どうぞよろし なんていおうかな ・あつまつてはなそう ・じんぎのあつまつたよ		こえにだして まもう
算数	こんなもの あつめたよこ	かずとすうじ ・教科書をひらこう			
音楽		あいまつをしよう ・うたでなかなろう	うたでなかなろう		
図工		すきなかたちいろいろ なあに からだはぐしのうんどう	かきたいのもの なあに じゅんぎのマーク		
体育	・運動会の仕方(1)	かけたあそび ・あそびに	ゆうぐあそび ・あそびに		
道徳		たのしい学校	あかるい あいまつ		

- ・生活科を中心として他教科等において学んだことがどのように関連付いていくかを意識し、児童の思いや願いを活かした学習活動を展開するために、全ての単元を配列し、俯瞰することができる単元配列表を作成することが効果的である。
- ・幼児期とのつながりや児童の発達の特徴を踏まえ、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるよう、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫を行う必要がある。
- ・各教科等で育てたい資質・能力を意識し、児童の意識の流れをつなげるために相互の関連について検討し、位置づけた。

<幼保小連携年間計画>

- ・4月の小学校の参観日に園の先生方にも参観していただき、児童の実態をもとにして、第1回幼保小連絡会を行う。そこで、年間計画等を確認する。
- ・夏季休業を利用し、小学校職員の保育体験を行い、相互理解を深めるようにする。
- ・10月までに接続カリキュラムの検討会を行い、10月からのアプローチカリキュラムに活かす。
- ・園の保育内容と小学校1・5年生の教科等の単元のねらいとの関連を図りながら交流を行う。年長児・児童の交流を通して子どもの姿を語り合い、相互理解につなげる。



③年長児と5年生の交流について

<ねらい>

- ・年長児との交流会の準備や一緒に活動することを通して、相手の気持ちを考えて活動したり自己の成長に気づいたりする。
- ・最高学年への自覚（期待感・役立ち感など）を高める。



白ゆり保育園との交流（５年生）



今日は何して遊ぶ？



転がしドッジ楽しいね！

A group of children and an adult are sitting in a circle on a polished wooden floor, likely in a gymnasium. The children are of various ages, some wearing masks. They are all looking towards the center of the circle. The adult is sitting on the left, wearing a dark jacket and a face mask. The children are wearing various casual clothing, including jackets, sweaters, and pants. The floor is made of light-colored wood with yellow lines. The background is slightly blurred, showing other people and the structure of the gymnasium.

今日はどんな
遊びができる
かな♪

今日は2回目！ よろしくね



見て 見て
じょうずに
とべるよ!

見て 見て! なわとび



お姉さん達
上手だな!

一緒にダンス楽しもう!

さくら幼稚園保育園との交流（5年生）

いっしょに
仲良く
遊ぼうね！

初めまして よろしくね！





じゃんけん列車 大好き！



わかりやすく
読めるかな
緊張するな

絵本の読み聞かせ

A photograph of two children participating in a relay race on a wooden floor. The child on the left is wearing a white long-sleeved shirt, black shorts, and a white cap, leaning forward with hands on the floor. The child on the right is wearing a blue and white short-sleeved shirt, blue shorts, and a white cap, also leaning forward with hands on the floor. A yellow cloth is on the floor between them. The floor has blue and red lines. The photo is tilted and has a white border.

スピードを
合わせるの
難しい!

ぞうきんリレー よ〜いドン!

就学時健康診断



やさしい
お兄さん
お姉さんだな



体験入学



いっしょに むりえ! 楽しいね



1年生の教室
まで案内するよ!





1年生との交流



面影小学校を
案内するよ!



じゃんけんポン！
すごろく楽しいね



小学校での
勉強楽しみだな！

③年長児と5年生の交流について

<5年生の変容>

- ・年長児との交流を通して、小さい子への言葉かけの難しさを感じつつも優しく温かい言葉かけができるようになってきた。
- ・心から「小さい子ってかわいいな。」と感じるとともに、自分もこのように関わってもらっていたんだなと、感謝と成長を感じていた。
- ・「自分が、自分が」と自分中心の考え方だったが、少し立ち止まって相手の気持ちを考えて活動することができるようになってきた。
- ・最高学年への自覚をもつとともに、年長児が1年生として入学してくるのを心待ちにしている。



④保育参観（特別支援教育主任・若手教諭）

・夏季休業中に、若手教諭が白ゆり保育園、さくら幼稚園・さくら保育園を訪問し、参観させていただいた。

集団への話し方、個への声かけや支援は、どのような工夫があるのかな。
「短い言葉で分かりやすい!」

話を聞くと、子どもたちを引きつけるための魅力的な方法を発見!

小学校の朝の会と同じようにするのかな。
「自分たちで動いている」
「流れが分かっていると安心につながるね」



3 成果と課題



【成果】

- ・園・小学校の全職員で子どもの実態を共有できた。園・小学校の連携の必要性の認識には違いがあることに気づいた。
- ・アプローチカリキュラムをもとに、接続カリキュラム・スタートカリキュラムを3つの観点（育てたい資質・能力）に沿って見直すことができた。また、交流や話し合いを通して、子どもたちに付けたい力が見えてカリキュラムの整備に活かすことができた。
- ・幼保小連携の体制づくりができた。
- ・年長児と5年生との交流を通して、児童の成長・園児の安心感につながるだけではなく、児童・園児の姿を通して職員同士が一步つながった。

【課題】

- ・接続に関する認識の差が大きいことがわかった。
→職員同士の交流（相互理解や情報交換）の必要性がある。
- ・幼保小連携について考えるのは、幼保小連携の担当者（1年担任・年長児担任など）だけになりがちであった。
→それぞれの小学校・園の職員全体で共有していくことが大切である。
- ・幼保小連携の必要性を実感した。しかし、面影小校区だけでなく、中学校区や鳥取市内などに、どのように幼保小連携を広げていくかが難しい。
→行政を交えた幼保小連携に関わる体制づくりが必要である。



4 今後の連携

- ・ 子どもの交流を通して、職員同士が教育・保育や実際の子どもの姿について理解したり語ったりする場を設定し、深めていく。
- ・ 保育体験などを通して、小学校職員の保幼小接続への意識を高めていく。
→ 日常性・必要性がある交流活動の充実
- ・ 本年度作成した、接続カリキュラム・スタートカリキュラム・幼保小連携年間計画をもとに実践していき、カリキュラム等を改良・修正・検討しながら整備し、育てたい子ども像に向かうカリキュラムを作成していく。また、その体制づくりをしていく。
→ 学びに向かうことが可能なスタートカリキュラムをデザインする。
- ・ 園と小学校のみではなく、同じ校区の園として職員が同じ思いで子どもたちを育てていくために、両園の子ども・保育士の交流を行いながら、共通理解を図る。
→ 校区全体で育てたい子どもの姿・力の描き出しをする。
→ その育てたい姿に向けて、普段の授業や保育の質の向上に努める。